



クリスマスはイエス様のお誕生日?!

朝、門に立っていると園庭で遊んでいる子どもがやって来て、いろいろな話をしてくれます。その中でも意外に多いのが礼拝のお話の感想。「園長先生、この間の礼拝のお話おもしろかったよ!」そう言われて“それはよかった”と返していいものか少し躊躇するのですが、そんなふうに言ってくれるのは嬉しいことなので「そう、よかった。次の礼拝もお楽しみに!」と言葉を返しています。先日は「えーっと、ゆうきくんも2人いるでしょ、それから、そうたくんもあかりちゃんもだ!わたしはよっしーと同じ名字だし。」と、突然話しかけてきたRちゃん。実はこれも礼拝のお話の続きです。この前のお話によセフさんという人が出てきたので、「それはイエス様のお父さんのヨセフさんとは違うんだよ、ほら、幼稚園にも同じ名前の友達がいるでしょ。」と話したので彼女は話をしていたのです。話は続きます。「私、みんなにイエス様のお父さんのヨセフさんって言ったけど、たんぼぼ組は知らなかったかもしれないね?」「えっ、どうして?クリスマスのお話でしょ?」「そう、クリスマスのお話だけど、クリスマスはイエス様が生まれた日って知らないんだよ。」「?」「Rちゃんは愛隣の子だから、本当のクリスマスのお話を知ってるけど、たんぼぼ組の子は愛隣に来て初めてのクリスマスだから、きっと知らない子がいっぱいいると思うよ。」「そうなんだ。」愛隣生活が長くなった彼女には、クリスマスがイエス様のお誕生日であるという事は取り立てて話題にするほどのことではなかったようです。幼稚園で初めてクリスマスを迎える時、子どもたちは驚きます。Rちゃんだってそうだったはず。クリスマスはサンタクロースからプレゼントをもらう日だとばかり思っていたのに、「クリスマスは神様の子、イエス様が生まれた日」と知らされるのです。イエス様や神様のことは礼拝のお話で聞いていましたが、“クリスマスがイエス様のお誕生日!”とか、“イエス様が神様の子ども!”だなんて、ちょっとびっくりです。しかしこの出来事自体が、子どもたちとイエス様をぐっと近付けてくれることとなります。そしてこれまで聞いてきた、またこれからも聞くイエス様のお話は子どもたちの心の中に大切に収められていくように感じています。

『イエス様は神様の子どもでしたが王様の家に生まれたわけではありませんでした。その誕生は馬小屋で大工の家の子どもとして生まれました。神様のことを伝える生涯を通じて、その姿はいつも人々の中に、人々と共にありました。友達がいない人の友となり、弱い人を助け、悲しむ人を慰めてくださいました。恵みを分かち合うことの喜びをくださいました。人を裁く前にまず、自らの行いを悔い改めるようにと教え、許し合いなさいと教えてくださいました。無事な99匹の羊をおいてもいなくなった1匹の羊を探しに行かれました。私たちは誰もが、神様に愛されている一人ひとりであることに気付かせてくださいました。そして、最も大切なことは「ただ一人の神様を敬い、自分を愛するようにあなたの隣人を愛することです。」とおっしゃいました。イエス様は私たちに平和をもたらすために来て下さったのです。』

このイエス様のお誕生日を今年もまた、子どもたちと共に祝いしたいと思います。イエス様に出会った子どもたちが迎える「クリスマス」は、恵みを分かち合う時、隣人を想う時、許し合う時、世界中のどの人にも幸せが訪れますように、平和がきますようにと祈り、願う「クリスマス」でありたいと思います。イエス様が祈り、その行いによって神様の愛を示し私たちのうちに平和を実現してくださいました。私たちもイエス様にならって子どもたちと共に平和をつくり出す人になりたいと思います。